



新型インフルエンザが町内でも発生した頃、「インフルエンザウィルスにセンダンの粉末が効果的である」という主旨の記事（日経ビジネス 2009年8月17日号）を目にしました。

センダンと言えば、夏の真っ盛りにセミがびっしりと留まっている木というイメージです。

与論の薬草先生である山悦子さんに、センダンやその他の島の薬草について話を伺いました。

## 雑草たちの多くは

## 島に昔から自生している薬草

山さんが薬草に興味を持ったのは、小学校二年生の頃。田んぼのそばに咲いていた黄色い花がとてもかわいらしく思え、母親に名前を尋ねると「カンバラ」という花で、薬として利用されているんだよ」と教えられたそうです。

こんなにもかわいい花が薬草だなんてという驚きを覚えた山さんは、それ以来、島にある薬草を調べています。

## 自分が島のために出来ること 「島の薬草」を伝え続けること

例えば、シロアワユキセンダングサ（サシ）と同じ種類のタチアワユキセンダングサには、「（動脈硬化や糖尿病などの生活習慣病に関与する）活性酵素を消去する抗酸化作用がある」（※1）といわれていますが、島ではまだまだ畑の雑草という考えのほうが多いです。



▲8月25日の商工会女性部主催「薬草散策」にて。山さんが講師を務められ、34名の参加者と一緒に、島に自生する薬草を見て回りました。



▲山さんは、与論にある薬草を調べて40年。「与論島薬草一覧」という本を自费出版されていて、自宅の庭には、40種類以上の薬草がある。

このように雑草と嫌われていたり、その風貌から厄介者と思われている草花。それが生活に役立つ薬草なのだということを島民が認識することで、島の良さをもっと分かってもらえるはず。自分出来ることは「島の薬草」を伝えることだと、山さんは強く信じています。

（※1）琉球新報.jpより（2006年10月29日の記事）